

中小、磨けば光る

部品大手が人材育成支援

「今こそ、中小企業の底上げを」。製造業の繁忙が続く中部地区で、自動車部品大手が、地元中小企業の人材育成を手助けする新たな試みが始まった。プロジェクト名、「工場長養成塾」。07年から団塊世代の大量退職を迎える今、中小企業では特に工場長など将来、経営の中核を担う人材の育成に悩みを抱える企業が多い。そんな企業を地域ぐるみで救おうと、大手企業の工場長経験者らが立ち上がった。

(名古屋・中村裕)



中小の幹部候補者らが集まり実践形式で経営センスを磨く(ナガラ本社工場、名古屋市中川区).....産学連携で地元中小企業の人材育成を支援する。10月に開校し

工場長経験者ら集結

自動車用プレス金型の中堅メーカー、ナガラ(名古屋市中川区)の本社工場。

「金型のリードタイムを何とか縮めたいんです

が。」(工場幹部候補者)。「ならば、複雑な

金型の工程をもう一度、一つひとつ洗い出してみ

ましょう。問題点が必ず

見えてきますから」(工場長養成塾講師)。

ナガラの金型工場では

10月から、こんなやりとりが繰り返されている。

工場長養成塾では中小

工場幹部候補者が中心となり、養成塾の講師陣と

ともに工場でカイゼン活動を進め、経営センスを

磨いていく仕組みだ。

養成塾の講師には、豊田自動織機やデンソーな

ドトヨタ系大手メーカーから、工場長経験者ら7

人が集まった。地元の名古屋工業大学も加わり、

た養成塾。募集枠16社

に、55社からの応募が殺

到した。特にオーナー系

企業からの応募が多いの

が特徴で、ナガラもそんな

企業からの1社。同社の早

瀬実社長(66)は「大手

と、期待を寄せた。

生産が繁忙で、目先の

仕事に追われがちな中小

企業。人材育成もままな

らず、「将来自分がいな

くなった時、工場を切り

盛りできるのか」。社長

養成塾立ち上げ 幹部候補を育成

業をリタイアをする前に、そんな不安を抱える中小経営者も多い。

豊田自動織機で長く生

産現場を経験し、同社で

社長も務めた現顧問の磯

谷智生氏(77)。磯谷氏

も、そんな中小経営者の

不安を汲み取り、同プロ

ジェクトに賛同した一人

だ。養成塾の名誉塾長に

就任し、「中小企業は磨

けば、まだまだ光る。我

々のノウハウを存分に吸

取し、今後の工場運営に

役立てて欲しい」と、エ

ールを送る。

中部地区で始まった新

たな試み。第1期生と

なる工場幹部候補者たち

は07年2月まで、計14

8時間にわたり、工場現

場で実習を積み、巣立っ

ていく予定だ。